

## 実践例「学習活動の深化・充実」

### 「課題5 学ぶ意慾を高める指導方法の改善と充実」

#### I 学校名 富良野市立山部小学校【上川管内】

#### II 研究の概要

##### 1 研究主題

児童自ら課題を見つけ、協働して学びを深める授業実践  
～複式授業を軸とした学び合いの授業を通して～

##### 2 研究主題について

現在、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。このような時代にあつて、学校教育には、子ども達が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的は理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

本校の児童は、素直で明るく指示に対して真面目に取り組むことができる。

授業を中心に朝学習や家庭学習の取り組みで基本的な知識・技能が身に付いてきている。しかし、課題を自ら見つける力や、身に付いた知識を生かして課題を解決する力が育っていない。全国学力学習状況調査の結果からは、主に国語と算数において、考えを説明したり、記述したりという表現力が他の観点に比べて低いことが明らかになっている。

また、全学年複式学級になることも考慮し、複式授業を軸として児童が協働的に学びあう力を育てることも求められる。

本校では、これらの今日的な教育問題や児童の実態を踏まえて、令和4年度より2年計画で主題を「児童が自ら課題を見つけ、協働して学びを深める授業実践～複式授業を軸とした学び合いの授業を通して～」と設定した。

##### 3 研究内容

###### ① 目指す児童像

- ア 課題を意識し粘り強く取り組む子
- イ 思いや考えを適切に表現できる子

###### ② 研究仮説及び研究内容

- ア 研究仮説1 単元のゴールを明確にすることで、学習の見通しをもち児童が課題を見つめることができるだろう。

- ◎ 単元のゴールを明確にし、児童自ら課題設定できるようにする。
    - 児童全員が単元の学習が終わったらどのようなことができるようになっているかを知っている。
      - ・単元導入時にゴールイメージを伝える。どんな活動をするか、どんな成果物ができているか伝える。
    - 単元の流れを理解していることで、どのような課題を解決していったらよいか考えられるようにする。
      - ・単元の流れを掲示する。または、導入時にノートに記述する。
  - ◎ 振り返りの視点を明確にして書かせることで、次時の学習の見通しをもたせる。
    - 「次の時間への期待」の視点を必ず入れて書かせる。また、振り返りと評価として用いる場合には、評価の観点に合わせて以下のように視点を示す。視点については板書または掲示する。
      - ・「わかったこと・できるようになったこと（知識・技能）」
      - ・「考えたこと（思考力・判断力・表現力）」
      - ・「がんばったこと・やってみたいこと（主体的に学習に取り組む態度）」
  - ◎ 学習の見通しを全員にもたせ、自力解決への意欲を喚起する。
    - 児童全員が課題解決に向けて、何をしたらよいか見通しをもつことができるように教師が支援する。
      - ・既習事項の確認をする。これまでの学びを想起させる。読み取るポイントを確認する。
- イ 研究仮説2 児童の発達段階に応じて、話し方の型を用いることで、自分の思いや考えを伝え合い、学びを深めることができるだろう。
- ◎ 山小スタンダードを確立し、実践する。
    - 学習規律の徹底を図る。
      - ・持ち物・机上の準備・手のあげ方・話の聞き方・ノートの書き方・学級掲示・板書の仕方など、全学年共通の約束（特に学習の基本について）
    - 学習リーダーを育成する。
      - ・司会シナリオの活用。
      - ・児童全員が学習の流れを理解し、自分たちで学習を進めているという意識をもてるようにする。
  - ◎ 話し方の型 （系統表参照）
    - 他者の意見に関わって、児童が学習を進めていけるようにする。
  - ◎ 発達に応じて学んだ言葉を適切に活用できるようにする。（朝学習「国語」で実施）
    - 言葉の意味を確認し、活用を促す。
      - ・3年生以上は辞書で調べる。
      - ・学んだ言葉で短文を作り、各学年の廊下に掲示する。
  - ◎ 思考ツールの活用 （系統表参照）
    - 他教科でも活用→生活科 総合的な学習の時間 算数 社会など

### Ⅲ 具体的な授業実践(校内研究授業より)

#### 1 単元名

1年生 『かんじの はじまり』【教育出版「ひろがる言葉 小学国語 一上」】

2年生 したことや言ったことから、登場人物の考えを読もう。

『わにのおじいさんの たからもの』【教育出版「ひろがる言葉 小学国語 二上」】

#### 2 研究内容との関わり

##### ① 研究仮説1にかかわって

##### ア 学習の見通しについて

	本時	単元
1年	黒板掲示による流れの提示	単元計画パズルの掲示
	○全ての児童が見通しをもって、学習の順序、活動内容が把握され、スムーズに学習が進む事が考えられる。	○単元計画を見てどのようなゴールと学習過程が展開されているか理解できる。 ・本時の課題の設定についても、児童の実態に即して課題を立てることが容易になる。 ・パズルができていく過程が見えるので、どこまで進んだかの見通しがもてる。
2年	オクリンクとホワイトボードによる提示	単元計画表の穴埋め
	○学習の流れがオクリンクとホワイトボード両方で示しているため、オクリンクで確認後、次のスライドに移っても、次の学習の見通しをもって進むことが考えられる。	○単元計画を見てゴールを達成するために、どんな活動を行うべきかが考えられる。

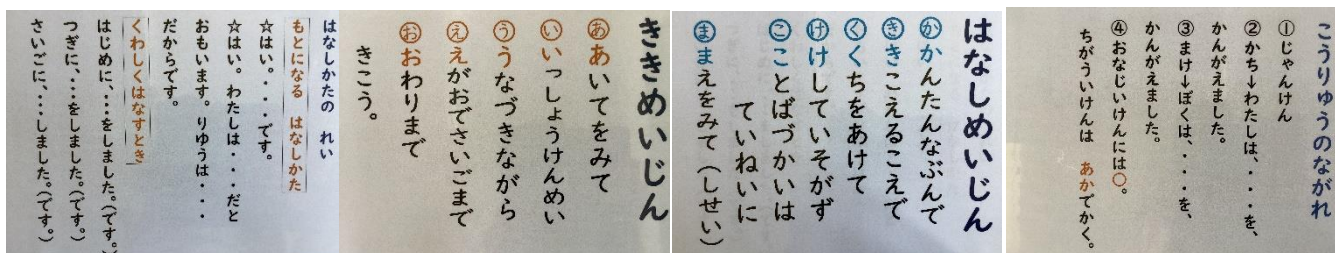
##### イ 単元ゴールの見本について

○ 単元の見通しをもてるよう全文掲示する。

##### ② 研究仮説2にかかわって

本時では、1年生は学習リーダーの型を掲示することで、課題とまとめの提示を自分達で進めるよう取り組んでいる。話し方は系統表を基に取り組んでいる。2年生では、オクリンクを使って、学習の流れが定着するように取り組んでいる。考察では、自分の言葉で、「はじめに、次に、理由は」など、流れに沿って説明できるよう取り組んでいる。

また、話し方名人と聞き方名人の型を確認することで、どのように聞けば良いのか、どのように話せば良いのかを確認しながら発言させる。話し方の例や交流の流れの例も掲示することによって、低学年ではどのように話せばよいのかについて取り組んでいる。



### 3 本時の展開

#### ① 本時の目標

1年生→新出漢字を読み、文や文章の中で使うことができる（知）

2年生→これまでの学習や単元のゴールをもとに学習を計画しようとしている。（主）

児童の活動（○） 予想される児童の考え（・）	□教師の働きかけ ◆評価	学習 過程	児童の活動（○） 予想される児童の考え（・）	□教師の働きかけ ◆評価
<p>○六つの漢字の書き順を確認してノートに書く。</p> <p>○本時の課題を確認する。 ・かん字は、何からできているかをしろう。</p> <p>○見通しをもつ。</p>	<p>□漢字の成り立ちを説明することに見通しをもつ。</p>	<p>つかむ ひろげる</p>	<p>○漢字の学習 ○スキルを行う。</p>	
<p>○何の形からできた漢字かを確認し、絵と絵文字と漢字を結びつける。</p> <p>○絵文字がどのようにできたか穴うめする ・「日」は太陽の形からできたかん字です。</p> <p>○友達と交流し自分が書いていない文があったら書き加える。</p> <p>○答え合わせをする。</p> <p>○新出漢字を使ってできる文や文章を書く。</p> <p>○文を紹介し合う。</p>	<p>□例を示して、何をすればよいかを確認する。</p> <p>◆新出漢字を読み、文の中で使うことができる。（知）</p>	<p>かんがえる つかむ</p>	<p>○扉絵から登場人物や宝物が何かを予想する。 ・したこと言ったことから気持ちを読んで登場人物の宝物を考えたいな。</p> <p>○2つのモデル提示（手紙）をして、違いから単元の課題を考える。「したことや言ったことから、登場人物の考えを読んで手紙を書こう。」 A したこと言ったことのみで書く手紙、 B したことといったことから登場人物の考えを読んで書いた手紙</p> <p>○本時の課題を確認する。 ・学習の計画を立てよう。</p> <p>○「わにのおじいさんのたからもの」を一読する。</p> <p>○見通しをもつ</p>	<p>（指導事項） 登場人物の行動の具体（様子や思い）を想像する → 思考操作（したこと、言ったことから登場人物の思いを読み取り、表にまとめる） → 言語活動（手紙）</p> <p>□穴埋め式にして、自分で単元計画を立てることを伝える。</p>

<p>○考察しながら交流をする。 ・書いていなかったことを書き加える。</p> <p>まとめ かんじは かたちからできている。</p>	<p>□条件に合う文が書けているかを確認する。 (推敲)</p>	<p>ふかめる</p>	<p>かんがえる</p>	<p>○個人で考える。 穴にどんな言葉が入るかを考える。(p115「ここが大事」を参考に) ○どうして、その活動をするのが良いか理由を考えさせる。</p>	<p>◆これまでの学習や単元のゴールをもとに学習を計画しようにすることができる。</p>
<p>○本時の学習をふりかえる。 ・ものや形から漢字ができていたことが分かった。 ・他の漢字の成り立ちも知りたいな。 ○漢字の練習</p>	<p>わかったことできたこと。</p>	<p>ひろげる</p>	<p>ふかめる</p>	<p>○考察をする。</p> <p>○本時の学習をふりかえる。</p>	<p>□担任の例示と比較し、学習計画を知り、摺り合わせる。</p> <p>がんばったことやがんばりたいこと。</p>

#### 4 成果と課題

##### ① 研究仮説1にかかわって

###### ○ 成果

- ・ 学習の見通しをもたせることで、子ども達が次にどう進めていくか理解しながら進めることができた。学習に対する不安の強い児童にとって、見通しを持つ＝安心して取り組むことにつながっていた。

###### ○ 課題

- ・ 振り返りが必ずしも課題に沿ったものにならないことがあった。
- ・ 見通しを持つだけでなく、一単位時間あたりの流れも明確にすることが必要である。この時間は何をすればゴールにたどり着くことができるのかが見えると、さらに安心して取り組むことができる。

##### ② 研究仮説2にかかわって

###### ○ 成果

- ・ 継続して取り組んできた結果、一定の進め方が身についてきた。リーダーがうまくすすめられるようになり成長が感じられる。

###### ○ 課題

- ・ 山小スタンダードが現在どこまで確立していて、どこまで確立させることを目指すのか、職員全体で共通理解することが必要。
- ・ 話型が身につけてきたので、徐々に自分の言葉に置き換えていえるようになるとさらによい。

## IV 系統表について

項目		1・2年生	3・4年生	5・6年生
山小スタンダードの目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の流れを理解する。</li> <li>・自分たちで学習を進めているという意識をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題とまとめを自分たちで書き出すことができる。</li> <li>・教師のサポートを受けながら自分たちで学習を進めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な意見や考えから考察することができる。</li> <li>・自分たちで学習を進めることができる。</li> </ul>
話し方		<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしは〇〇になりました。</li> <li>同じです。</li> <li>似ています。</li> <li>付け足します。</li> <li>・他にもあります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしは〇〇と思います。それは〇〇だからです。</li> <li>・わたしは〇〇さんと同じです。</li> <li>・わたしは〇〇さんとちがいます。</li> <li>・〇〇さんに尋ねます。どうして〇〇なのですか。</li> <li>・付け加えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしの考えは〇〇です。理由は〇〇だからです。</li> <li>・わたしは〇〇さんと〇〇は同じですが、〇〇はちがいます。</li> <li>・〇〇さんに尋ねます。どうして〇〇なのですか。</li> <li>・付け加えます。</li> <li>・〇〇さんの考えは〇〇ではないですか。</li> </ul>
思考ツール		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベン図（比較する）</li> <li>・ピラミッドチャート（構造化する）</li> <li>・Y・Xチャート（分類する）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラゲチャート（理由をつける）</li> <li>・イメージマップ（関連付ける）</li> <li>・ステップチャート（順序立てる）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィッシュボーン（分析し多面的に見る）</li> <li>・座標軸（比較・分類して位置付ける）</li> </ul>
A 話すこと 聞くこと	表現、共有（話すこと）	ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。	ウ 話題の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。	ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。
	話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）	オ 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。	オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。	オ 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。
B 書くこと	構成の検討	イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。	イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。
	考えの形成、記述	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫すること。	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。